

# 平成 19 年度供給計画の概要

平成 19 年 3 月

 北陸電力株式会社

# 目 次

はじめに	-----	1
1. 需要見通し	-----	2
2. 需給計画	-----	3
(1) 最大電力バランス	-----	3
(2) 発電電力量構成	-----	4
3. 系統整備計画	-----	5
(参考) 設備投資額	-----	5

## はじめに

当社は、平成11年の志賀原子力発電所1号機第5回定期検査において、臨界事故が発生していたこと、かつ、これを国および自治体に報告していなかったことが判明したため、3月15日にこの件につきまして国および自治体に報告いたしました。

これまでの志賀原子力発電所2号機の低圧タービン羽根損傷や数々の品質管理上の問題に加え、今回の不祥事の判明により、原子力に対する社会的信頼や、当社に対する地域の皆さまの信頼を大きく損ねることとなり、極めて重大な事態と受け止めております。

二度とこのようなことを起こさないという決意のもと、全社をあげて、志賀原子力発電所1号機の安全の総点検を進めるとともに、今回の臨界事故に関する事実関係・原因の徹底的な調査、究明と抜本的な再発防止対策を策定してまいります。

当社グループは、信頼の回復に向け、再発防止対策の確実な遂行を通じて、コンプライアンス違反の根絶を図り、企業風土の改革を推し進めるとともに、原子力における「安全文化」の浸透・定着のもと、設備全般にわたる信頼性を万全にすることで、電力の安全・安定供給の責務を確実に果たしてまいります。

このような中、平成19年度供給計画は、安定供給の確保を最重点事項として策定いたしました。

### ○万全なる安定供給の確保

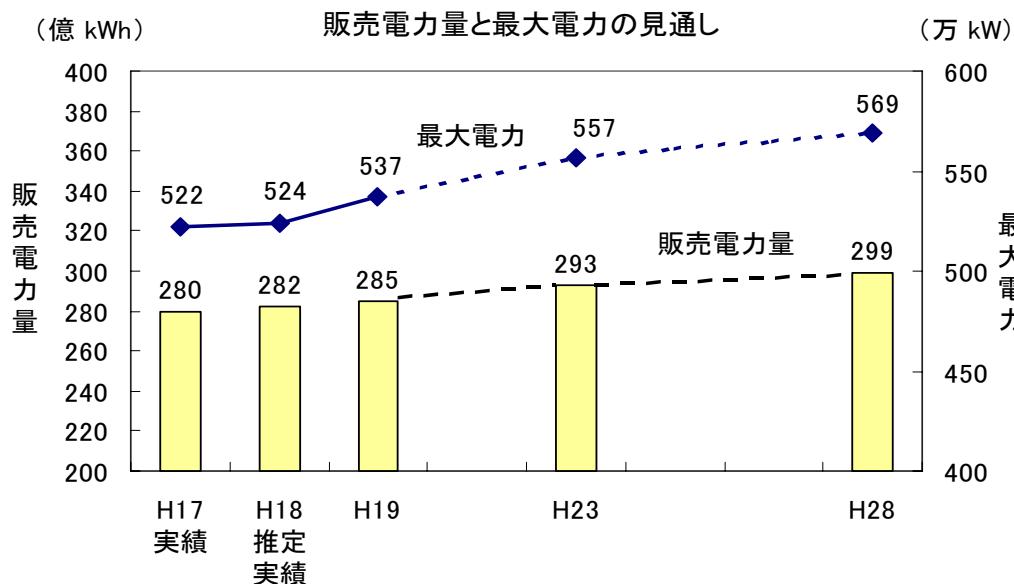
志賀原子力発電所1、2号機については、確実な見通しを立てられない状況であることから、計画上、平成19年度は年間を通して停止するものといたしました。

このため、19年度の需給状況は大変厳しく、火力発電所の定期点検の見直しはもとより、融通送電の抑制、さらには応援融通の受電により供給力を確保するとともに、引き続き、水力発電所、火力発電所の安定運用に努め、電力安定供給の万全なる確保に全力を傾注してまいります。

今後、志賀原子力発電所に対する安全・安心の再構築、および、当社に対する信頼の回復を図るとともに、責任ある電気事業者としてエネルギーセキュリティの確保や地球温暖化問題への対応などにも引き続き着実に取り組んでまいります。

## 1. 需要見通し

- 平成18年度の販売電力量は、オール電化住宅の普及拡大や景気回復に伴う堅調な生産活動などにより、5年連続で前年水準を上回る見込みであります。19年度についても、景気の緩やかな回復を背景に、引き続き前年水準を上回るものと見込まれます。
- 中長期的には、民生用需要はオール電化住宅の普及拡大に加え、高齢化の進展に伴う医療福祉関連の着実な増加などから堅調に推移することに加え、産業用需要もIT関連の生産の伸びなどにより低めながらも増加が見込まれます。
- この結果、平成28年度の販売電力量は299億kWh、最大電力は569万kWと想定しました。今後10年間、販売電力量・最大電力とも年平均で0.7%の伸びを見込んでおります。



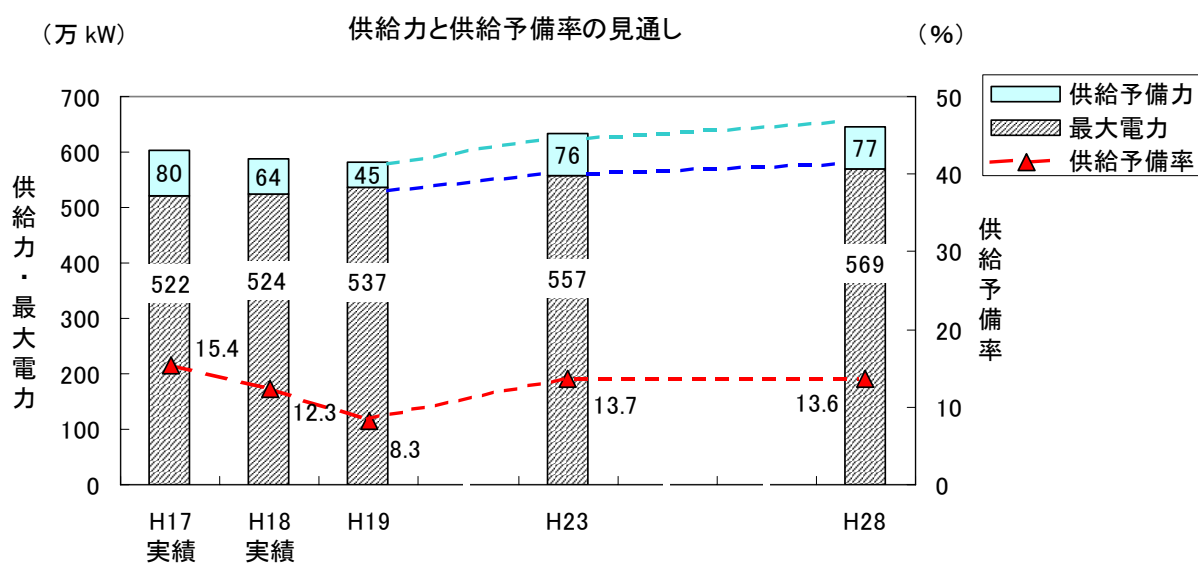
	H17 実績	H18 推定実績	H19	H23	H28	年平均 増加率 H17～H28
販売電力量 (億kWh)	280	282	285	293	299	0.6% (0.7%)
最大電力 (万kW)	522	524	537	557	569	0.8% (0.7%)
年負荷率 (%)	64.5 (62.9)	64.8 (63.7)	63.8	63.4	63.3	—

(注) ( )内は気温補正後の値。

## 2. 需給計画

### (1) 最大電力バランス

- 志賀原子力1，2号機については，確実な見通しを立てられない状況であることから，計画上，平成19年度は年間を通して停止するものとしたため，厳しい需給状況となるが，諸対策を織り込み，安定供給を確保する計画いたしました。
- 具体的には，火力発電所の定期点検見直しや融通送電の抑制，さらには応援融通の受電により，供給予備率8%を確保しております。

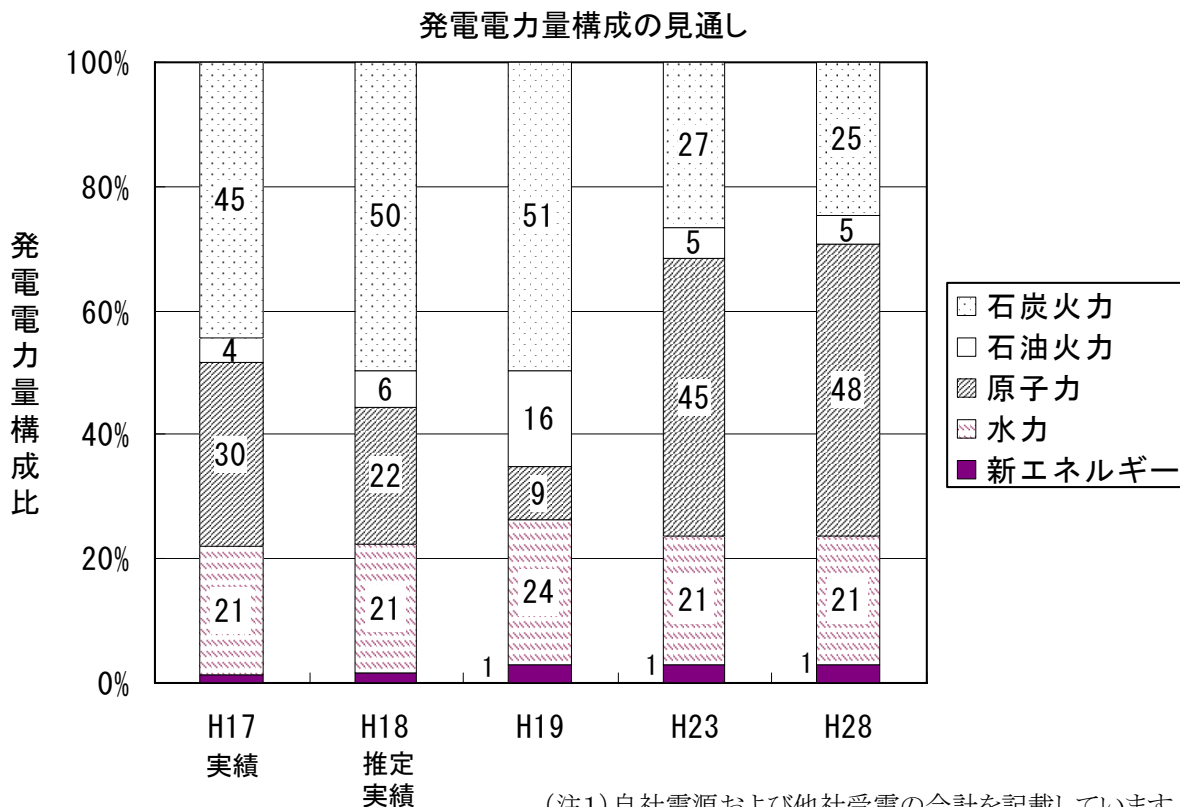


	H17 実績	H18 実績	H19	H23	H28
最大電力(送電端) (万kW)	522	524	537	557	569
供給力(送電端) (万kW)	602	589	582	633	646
供給予備力 (万kW)	80	64	45	76	77
供給予備率 (%)	15.4	12.3	8.3	13.7	13.6

(注) 四捨五入のため合計が合わない場合がある。

## (2) 発電電力量構成

- 志賀原子力1, 2号機については、計画上、平成19年度は年間を通して停止するものとしたため、原子力発電の構成比が1割を割り込み、火力発電の構成比が約7割となります。
- 新エネルギーについては、風力や木質バイオマスなどの導入を促進していきます。



(単位: %)

	H17 実績	H18 推定実績	H19	H23	H28
石炭火力	45	50	51	27	25
石油火力	4	6	16	5	5
原子力	30	22	9	45	48
水力	21	21	24	21	21
新エネルギー	0	0	1	1	1

- (注1) 自社電源および他社受電の合計を記載。  
(注2) 四捨五入のため合計が合わない場合がある。

### 3. 系統整備計画

- ・基幹系統の強化を図るため、以下の工事を実施いたします。

件名	工事概要			使用開始年月
中能登変電所 変圧器増設	275/154kV	400MVA	1台	平成20年6月



中能登変電所

#### (参考) 設備投資額

(単位:億円)

	H17 実績	H18 推定実績	H19	H20
電源	516	77	155	95
流通・その他	225	302	375	375
計	741	379	530	470

(注) 附帯事業を除く。